



平成28年7月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

ながの



特集

子供の見守り を考える

Contents

◆特集「子供の見守りを考える」

塩尻市「コミュニティスクール」
立役者に聞く 2~3

主任児童委員の取り組み事例を訪ねる その1
長野市松代主任児童委員 4

主任児童委員の取り組み事例を訪ねる その2
上田市主任児童委員 5

◆民児協訪問

筑北村民生児童委員協議会 6

飯島町民生児童委員協議会 7

◆平成28年度長野県民生委員児童委員
協議会連合会事業計画 8



つなぎひと 拡大版

塩尻市「コミュニティ・スクール」 立役者に聞く

国や長野県では、学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを進めています。

この取り組みを、塩尻市で率先して進めるキーパーソンで、主任児童委員にとって「つなぎ人」とも言える地域連携コーディネーターの池上さんにスポットを当てました。委員のみなさんに、学校との関わりを考えていただくきっかけとして取材しました。

今回は「つなぎ人」の拡大版として、池上さんが、国内外での教員の経験を経て、どんな思いをもって子供たちと接し、コミュニティ・スクールを進めるに至ったのかを中心に取材しました。そして塩尻市が進めているコミュニティ・スクールについて、説明していただきました。



塩尻市教育委員会 子ども教育部教育総務課
地域連携コーディネーター 池上 良満さん

池上さんはそれから、キャリア教育に関わるなどし、松川町で地域や学校とのネットワーク「松川エデュリンク」を設立します。これが今のコミュニティ・スクールの原型となったといえます。その後、赴任先では校長として地域と学校が協働して子育てを行うコミュニティ・スクールづくりを進めました。



特集

子供の見守りを考える

つなぐ編集委員会では、「主任児童委員の役割がわかりづらい。委員になったとき、どう社会の問題をとりえ、向き合い、誰とつながり、地域とどう連携したらいいのか。活動を考える上での事例が紹介できたら」と特集を組みました。

長野県の「ながの子ども・子育て応援総合計画（平成27～29年度）平成27年3月」では、基本目標を「みんなで支える、子育て安心県 ながの」とし、「子育てや子どもの育ちを家庭の中にとどめることなく、地域、学校、職場など社会全体で支えていくこと」とされています。

未婚率が高く、出産年齢も上がっています。さらに核家族化や祖父母世代の就業年齢の高齢化、近所付き合いの希薄化、ひとり親家庭が増え、子供の貧困についても日々、取り沙汰されています。

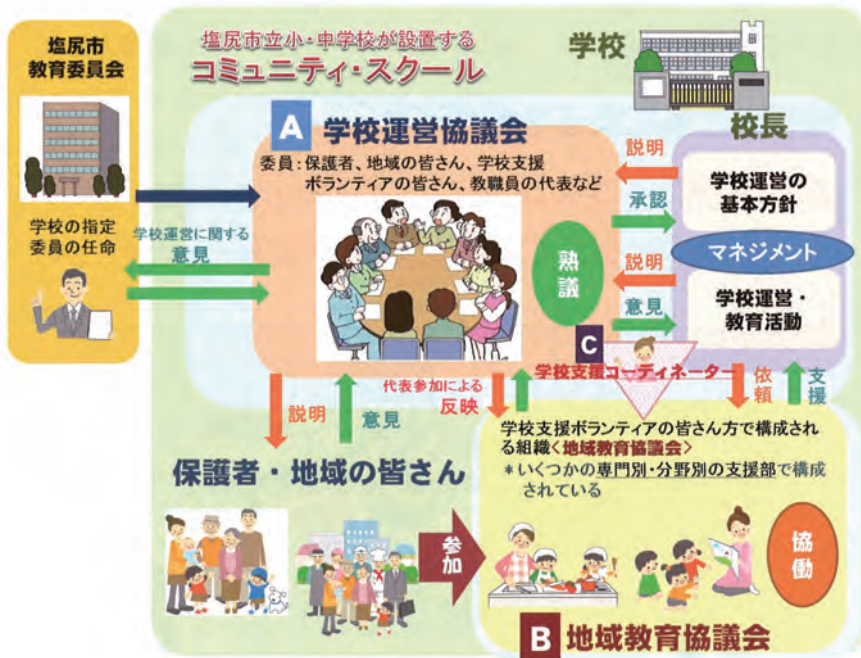
今回は、学校との連携の難しさがうたわれる中で、全県で推進する「コミュニティ・スクール」について塩尻市を例に上げ取材しました。また、主任児童委員2人の活動に密着し、子供たちの見守りの事例2つを紹介いたします。

若い頃の海外経験が発端

「コミュニティ・スクールを推進するに至った、そもその理由をたずねました。池上さんは30年程前、30代の時、ルーマニアの日本人学校で3年間働いた経験を話し始めました。「地域の人や自然から学ぶものがたくさんある」と感じたといいます。帰国後、英語の授業などに経験を取り入れ、子供たちが地域でどう学び、コミュニケーション能力を高められるのかを考えました。そして、同和教育の担当者となります。大阪など先進地域の事例に出会い「人と人とのつながりに問題が生じて差別が発生することを学んだ」といいます。「人権教育では学校は地域の人達と支えあつて、進めていかなければつまらない」と実感します。

その後赴任した松本市内の中学にいたとき、総合的な学習がスタート。そこで実践をします。地域の酒造店を訪ね交渉し、教員7名が子供達と一緒に酒造りを見学、杉玉制作なども体験しました。また酒樽太鼓を地域の人に教えていただき、蔵開きには松本市長も参加するなど、学校と地域の人達とつながり大きな活動へと発展しました。「詰め込み式の教育ではなく、子供たちが楽しんで地域から学ぶことができた」。まさに地域と学校が一体となって子供たちを育てる社会がそこにできてきました。

図1 塩尻市におけるコミュニティ・スクールのイメージ



塩尻市教育委員会「コミュニティ・スクール」冊子P2より

表1 塩尻市における地域教育協議会設置されている支援部とボランティアの内容の例

支援部名	実施するボランティアの内容(例)
学習支援部	* 授業支援：ドリルの○つけのお手伝い、調理実習の補助、体育学習の補助、理科の実験の補助、習字指導、美術（図画工作）指導、技術科指導など。（アシスタントや講師として） * 長期休業や放課後、休日における補習講師など。
読書活動支援部	* 読み聞かせボランティアや読み聞かせ指導。 * 図書館の蔵書整理や蔵書修理のお手伝いなど。
キャリア教育支援部	* (小) 生活科、地域探検、職場見学等の受入れや講師。 * (中) 職場体験学習の受入れ、職業講話の講師や講師探し。 中3の模擬面接試験の面接官としての支援など。
特別支援教育支援部	* 特別支援学級における学習活動のお手伝い全般。 * 校区における*ぶれジョブの支援や受入れ先の拡大支援など。
安全安心支援部	* 児童生徒の登下校時の見守り。 * 安全で安心して暮らせる地域づくりのための貢献活動。（道徳・人権教育や安全教育への関与等も含める。）
施設環境支援部	* 校地の除草、樹木の剪定等。 * 学校施設の補習・整備等。
部活動・課外活動支援部	* 部活動や課外活動における指導や指導補助。

*ぶれジョブ：障がいのある子どもたちの職場・職業体験。詳しくは、「全国ぶれジョブ連絡協議会」HPをご覧ください。
塩尻市教育委員会「コミュニティ・スクール」冊子P5より

図2



塩尻市教育委員会「コミュニティ・スクール」冊子P5より

『子縁社会』 子供を縁に地域がつながる

現在、池上さんは、塩尻市の地域連携コーディネーターとして、「コミュニティ・スクール」を担当。「地域には素晴らしい人がいる。それを個人レベルのつながりにとどめず、組織として運営していくことが大事」と、まず、地域教育協議会の構築を軸に進めています。（図1参照）平成27年4月にはガイドラインを策定し

ました。（表1・図2参照）
「無縁社会」と言われる昨今、自分の利益ではなく、子供たちを中心にして協議会を作り、互いに顔が見え「コラボできる社会を目指しています。池上さんは子供を通じてできる地域『子縁社会』を提言。こうした協議会の存在が、学校の教員の意識改革にもつながります。塩尻市では、28年4月より学校支援コーディネーターを各中学校区に1人ずつ配置しています。今後の課題は、こうした協議会の活動が自主的に活

発化していくことです。」「せひ主任児童委員を始め民生児童委員にも、積極的に参画して欲しい」と池上さんは強調します。「まず参加して話し合うことが大事」とのこと。学校はいま、地域へ扉を大きく開けようとしています。



▲子供を家庭まで迎えに行くこともあります



◀通学時には、美しい街並みの中で、周りにも目を配ります。

主任児童委員の取り組み事例を訪ねる

最初は子供の顔もわからなかった

長野市松代主任児童委員 石田 三千夫 さん

主任児童委員の石田三千夫さんは2年前から毎朝登校班に同行して、松代小学校まで通学に同行し、子供たちを見守っています。通学の見守り活動の現場に密着しました。

事例 その1



見守りと誰からもわかるように、ユニフォームを調達。



5月のある月曜日、朝7時30分に、松代地区の主任児童委員、石田さんがご家族で経営するお店を訪ねました。元気のいい子供たちの声が響きます。石田さんのお宅はなんと12人家族、4世代が暮らしています。近所にも大家族7人が住んでいるとのこと。孫も含め、松代小学校の集団登校班、約10人の集合場所となっています。近所からも続々と子供たちがやってきました。おばあちゃんが店の片隅に腰掛け、子供たちに声をかけます。

石田さんが主任児童委員をスタートした頃は会社員でした。「仕事をしていると近所の子供たちとの接点がないので、最初は困った。学校の行事に呼ばれても保護者の顔もほとんどわかりません。まず主任児童委員としてなにをしようかと思案しました。

26年10月、和歌山県に全国民生委員児童委員大会に行った折、「主任児童委員は地域から知られていると思いますか？」と講師に問われてはっとし、周知活動をと気づきました。「ぜひみなさんにも、こうした研修に参加して欲しいきつと何かを得られるはず」と言います。

退職して地区の民生児童委員が交通安全週間に見守り活動を行ったのをきっかけに、石田さんは毎朝登校班に同行して、小学校までの15分ほどの道のりを、子供達と毎日歩くことにしました。

途中で合流する他の班も最後まで見送り、校門に送り届けました。道の反対側からは、「おは



▲通学見守り仲間の存在は大きい!

▶自宅前に立つ見守り仲間とも情報交換



ようつ!」と元気な声をかけて、ハイタッチをしに来る子もいます。先生たちも石田さんに親しげに会釈をします。「副産物は先生方に顔を覚えていただき信頼を得られたこと」と石田さん。お母さんたちの顔も覚えられました。必然的に学校の行事に顔を出しても、知っている顔が増えました。

見渡せば、通学の見守りを以前から続けている堀さん、宮林さんたちがいました。松代地区民生児童委員協議会副会長の伝田さんもいました。仲間ができて飲み会もあるそうです。

「最近の子はあいさつをしない。と、よく言われるが、大人からあいさつしない限り、むりなこと。顔見知りになれば、子供は遠くからでもあいさつしてくれる」と実感しています。自ら一步を踏み出すこと。それがきっかけとなり、子供たちも地域の人たちも少しずつ変わり、自身の活動にもつながりました。



▲園長先生からのお話でスタート



◀絵本の読み聞かせはやはり子供たちに人気



▲ミニ絵本作りはカラフル

主任児童委員の取り組み事例を訪ねる 親子と遊びを通じてコミュニケーション

上田市主任児童委員 **白瀬 むつ** さん

未就園児の親子を対象にした「子育てひろば」を企画し、その運営に主任児童委員がキーパーソンとなっている事例があります。現場で活動する上田市の白瀬むつさんを訪ねました。



事例 その2



▶受付で明るい笑顔で親子を迎えます

上田市市街地にある聖ミカエル保育園では、未就園児対象に月に1、2回市の助成金を活用して、子育てひろばを開催しています。4年ほど前から、地域の主任児童委員、白瀬むつさんが企画を担当しています。5月のひろばには、10組以上の親子がやってきました。輪になってあいさつとお祈りからスタートします。白瀬さんの先導で、音楽にあわせて体を動かす体操や手あそびなどを行いました。絵本の読み聞かせでは、子供たちも興味深々。そのあとは、A4の紙に簡単な絵が書いてあり、その形をもとに想像を膨らませて、親子でミニ絵本を作成しました。どちらかというとお母さんたちが夢中になっていました。「身近なものでできる遊びをいつも紹介してもらい、面白い」「子育てのアドバイスもしていただける」と参加者からの信頼も厚いという印象を受けました。最後は、園手作りのデザートをお茶を飲んで、コミュニケーションになります。

子育て相談の 主軸的存在に



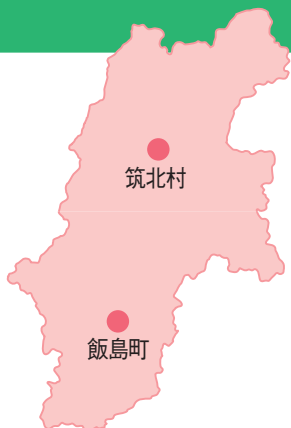
▲手作りのおやつをみんなでいただきます

白瀬さんは以前、保育士でした。公立で園長を務めたあと退職。介護をしながら主任児童委員となり3期目です。現役時代から「子育てひろば」の重要性を感じていたといいます。核家族が基本となる社会で、親戚や近所よりも同世代の子供を持つ仲間とのつながりを求めている傾向が強いのではないかとのこと。そこで、こうした場で、子育ての楽しさや悩みを共有できる友達や、保育士との出会いが大切だと白瀬さんは言います。こうしたひろばでのかかわりが、委員として、幅広い悩みの相談にも対応でき、つながられるようになったというまわ。

主任保育士の宮下さんは「子育ての経験のない若い保育士にとって、白瀬さんの存在は大きい」と話します。また園長の下原さんは「お母さんたちの不安をこらえ相談に乗ったりする場でもある。白瀬さんは、参加者にとっても保育士にとっても精神的な主軸になっており感謝している」と話します。

上田市では15年ほど前に地域の中にひろばの必要性を感じて、主任児童委員が中心となり「子育てひろば」を立ち上げたという経緯もあります。現在は社会福祉協議会の運営となっていますが、委員とも連携して活動を行っています。

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



筑北村民生児童委員協議会



▲委員は全体で29人。前列左から3人目が本城地区の西村会長、右隣が坂北地区の山崎会長。

三地区にそれぞれ会長をおき、定例会は地区ごとの会議をメインに。

筑北村は、平成17年、当時の本城村、坂北村、坂井村が合併して筑北村が発足しました。山に囲まれた4村の内、3村での合併となったため、丸いパンケーキを4等分し、一切れを取り除いたような地形です。中心には標高1387mの四阿屋山があり、旧本城村と旧坂井村は標高の高い地域でつながっています。この地形から坂井地域へは坂北地域から麻績村を経由してア

クセスする状況となっています。

歴史的経緯や地形は民生児童委員会のあり方にも影響し、旧村から移行した三地区が独立性を保ちながら活動しているのが特徴です。まず、会長は各地区から選出される3人。現在、全体の会長には本城地区の西村廣さんが就いていますが、坂北の山崎宮男さん、坂井の西沢君夫さんも地区の「会長」です。定例会は、全体会で協議した後、それぞれの会長を中心に別室で地区ごとに話し合いを深めています。

「大勢で話すと言言しない人がでてしまう。地区ごとに集まり、事情が分かかった上で意見交換する方が有意義」と西村さん。取材の日の全体会は、社協と行政関連のお知らせの他、会長から特殊詐欺や、児童虐待についての地元新聞記事を使つての情報提供がありました。「活動は個人の裁量任せ。委員にとって最も大事なのは社会情勢にアンテナを高くし、何かあったら素早くキャッチすること」との考えに徹し、会長の大切な役目は委員への啓発です。

続く地区別の会議は全体会から一転、「救急車で運ばれた人が複



▲一般情報の多い全体会の後は、三地区に分かれ具体的な意見交換を。

数いたので心配になって訪ねると、全員じきに戻ってほっとした。「陽気がよくなり、閉じこもっていたお年寄りが草取りに出るので声をかけやすい」など、高齢者の安否確認についての具体的な報告です。

松本へも長野へも便利な立地で自然の美しい筑北村ですが、人口は5千人を割り、高齢化率は42.4%。旧村単位の4小学校と組合立を含む2中学校の統合問題では、坂北地区会長の山崎さんが検討委員会のメンバーとして活躍するなど、発足から10年の新しい村ならではの課題対応にも一役かっています。ただ「このところ一期で辞める委員が増え、引き継ぎしにくくなっているのが悩み」とのことでした。

飯島町民生児童委員協議会



▲25人の委員は積極的で活動的。前列右から3人目が小池会長。

**手づくり新聞『お元気ですか!』で
交流しながらオレオレ詐欺防止。**

飯島町発足から60周年に当たる今年、役場に横断幕がかかり、いろいろな記念行事が行われています。会長の小池幸平さんは「ふたつのアルプスが見えるというだけでなく、旧天領で飯島陣屋が短い期間とはいえ伊那県庁だった歴史も知っていただきたい」と、町の魅力をアピールしています。

フルーツや花卉など農業が盛んで町内にみつつの道の駅がある飯島町ですが、近年は人口減少が続き1万人を割ってしまいました。

高齢化率は約30%。民生児童委員は①生活支援広報部会②高齢者障がい者福祉部会③児童青少年部会のいずれかに所属し、定例会とは別に部会も毎月開催し、それぞれの活動に励んでいます。

中でも「お元気ですか!」と題した月刊新聞の発行は「地味ではあるがオレオレ詐欺防止に相当役立つと思う」と、小池さんも自負する独自の活動です。新聞作りに興味のある人が非公式に作っていたものを、小池さんが会長となった3年前から、生活支援広報部会の中に正式に位置づけたもの。A4サイズ片面に、編集を担当する委員からの親しみを込めた呼びかけの言葉、消費生活センターからの、高齢者が被害を受けやすい詐欺事例と助言、そしてシルバー川柳など余興を掲載しています。

大きな文字をカラフルに装飾し、読みやすいよう工夫した新聞を持って対象世帯を訪問。手渡しながら話したり、直接交流を望まないお宅なら郵便受けへ。そんな世帯である日、前月号がそのまま残されているのを発見して不審に思った民生委員が警察に連絡し、



▲楽しく読めて役にたつのが評判の「お元気ですか!」をもつ編集委員の皆さん。

家の中で亡くなっていたのを発見したことがあり「安否確認ツールにもなっている」と小池さんはいいます。

定例会は時間を超過して議論になることも少なくなく、行事への参加に積極的なのも特徴です。社協の配食サービスでは女性委員が調理を、男性委員が配食を担当し、雪かきを頼まれると自ら手伝い、行政からの協力要請も多く「何でも屋になつて一期だけの退任につながるのでは」との懸念も。また、町の定住促進策もあって増えている移住者と、親密な近所付き合いに慣れた旧来からのコミュニティとの関係は、今後の課題になりそうとのことでした。



表紙写真紹介

「上田七夕まつり」(8月上旬)

撮影

上田市川辺泉田地区

民生児童委員 2期目 百瀬 邦昭さん

旧暦の七夕にあたる8月上旬、上田市海野町商店街において七夕まつりが開催されます。50年以上の歴史を持ち、各商店の趣向を凝らした飾りが華やかさを競います。通りは歩行者天国となつて様々なイベントで盛り上ります。

profile

定年退職後、趣味として写真を始め、主に地域の風景や花・小鳥等の写真を撮って、自宅でA4サイズにプリントし自己満足しています。また、地区の高齢の皆さんとの定期的交流会で鑑賞もいただいています。



平成28年度長野県民生委員児童委員協議会連合会事業計画

「広げよう 地域に根ざした思いやり」～誰もが住みやすい地域づくりをめざして～

I 事業の方針(一部掲載)

昨年4月からは生活困窮者自立支援制度や子ども・子育て支援新制度、さらには介護保険制度の改正、地域包括ケアシステムと地域づくりの構築がスタートしました。

本年4月からは「共生社会の実現」をめざす障害者差別解消法が施行されました。

県民児連では引き続き誰もが安心して住み続けることができる地域社会づくりに貢献できるよう、市町村民児協や単位民児協が地域の関係機関・団体等との連携・協働体制の強化を図り、住民が支え合う地域づくりの取り組みを充実させるための事業を実施するとともに委員が活動しやすい環境づくりのための検討をすすめます。

本年9月には、3年ごとに開催される「第23回長野県民生委員児童委員大会」が長野市において開催され、12月には委員の一斉改選が行われるなど、例年になく行事が予定されているため、その準備等に万全を期してまいります。

II 事業の重点

1 災害時要援護者支援活動の推進

さまざまな生活課題を有する地域住民の円滑な避難やその後の避難生活を支えるため、さらに行政や地域との関係機関と連携し、災害時要援護者支援活動の取組をすすめます。

2 地域社会での孤立・孤独をなくす運動の推進

「長野県地域見守り活動に関する協定」を長野県と締結した団体は、本年3月1日現在で21事業者及び1団体となっています。その中で民生委員・児童委員の役割は協定民間事業者からの連絡に基づき必要に応じて市町村と連携し、安否確認等を行うことになっていることから、日々の相談・見守り活動を充実させる支援とともに、行政や地域との関係団体等と協力しながら住民同士の互助の取組をすすめます。

3 地域における子育て支援活動の推進

児童虐待や犯罪被害等から子どもを守り、孤立した子育て・孤独な子育てをなくす活動に取り組みます。このために地区担当の児童委員と主任児童委員が連携し、地域で子どもを育てる機運の醸成を図るため、県下の主任児童委員を対象に「子育て支援を語るつどい」を開催(平成29年3月予定)します。

4 生活困窮世帯(生活困難家庭)への相談支援活動の推進

誰もが生活困窮に陥る恐れがある社会の中、生活に困っている方が自立するための支援が急がれています。昨年4月から施行された生活困窮者自立支援制度における民生委員・児童委員の行政等への協力のあり方やそこで必要となる情報共有等について関係機関との連携をすすめます。

5 単位民児協の組織強化の推進

県内、県外民児協や広域での民児協での交換研修の促進を図るため、交換研修を実施した民児協に対して引き続き助成金の交付を行います。

6 民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりの推進

民生委員・児童委員ならびに単位民児協における課題を整理・検討し、民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備とともに民生委員・児童委員の「なり手」確保に向けた検討をすすめます。

※全民児連では、100周年記念事業として「これからの民生委員・児童委員制度やその活動に関する提言」をまとめるため、有識者等で検討委員会を設置し、平成29年5月をめどに提言を行うことになっています。

7 記念事業の検討

平成29年に迎える「民生委員制度創設100周年」の記念事業の検討をすすめます。

※全民児連では、平成29年7月9日(日)、10日(月)に東京「ビックサイト」において式典を開催することとし、大規模な動員(全国で7,000~10,000人規模)を予定しています。



編集委員

リレー日記

九州熊本大地震の発生は私達にとって他人事ではない災害でした。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

災害は予知できるものではありません、不測の事態に備え私達は、日常の活動【見守り・声かけ】を細やかに高い高齢者の状況を把握しておきましょう。

今号は特集「子どもの見守りを考える」とし主任児童委員さんの活動事例を掲載しました。どの地域でも乳幼児・未就園児の子育て・児童の通学時の見守り等を積極的にに行い、子ども達を地域の宝として見守り、育てて行くことを中心となって活動されていることがよく解りました。

先日起きた子どもの行方不明事件無事発見され本当に良かったのですが、今回の事件で「しつけ」と「虐待」の区分はどこで判断するのか難しい問題が残されたように思います。私達は少しでも疑問があれば関係機関に連絡をすることが先ず必要だと思います。これは子ども達に限らず、「高齢者虐待」にも言えることではないでしょうか？

あと五ヶ月程で今期が終了します。健康に留意し日々活動しましょう。

草深邦子

編集委員 / 熊井 文弘・草深 邦子・古川 友枝・依田 宗夫